

## 令和6年度第3回奈良市プロポーザル採否審査会会議録

開催日時	令和6年6月6日（木）午後3時から		
開催場所	奈良市役所 中央棟5階秘書広報課会議室		
出席者	委員長	鈴木副市長	
	委員	真銅副市長 中岡法令遵守監察監 小西総務部長 谷田市民部長 田上建設部長 山口環境部長 垣見教育部長 梅田都市整備部長	
	事務局	契約課長、契約課長補佐	
開催形態	公開（傍聴人 0人）	担当課	福祉政策課 子ども育成課
議題 又は案件	案件1. 奈良市地域包括支援センター支援システム賃貸借 案件2. 子どもの体験支援事業業務委託		
決定又は取り 纏め事項	すべて採用		

### 議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等

#### 案件1. 奈良市地域包括支援センター支援システム賃貸借

##### 1. 議事の概要

##### (1) 業務の目的

下記に記述の多岐に渡る地域包括支援センターの業務を支援するシステムを構築することで、効率的かつ効果的な事業実施を図る。

##### (2) プロポーザル方式を採用する具体的な理由

地域包括支援センターでは、高齢者やその家族等から、介護・医療・福祉・生活支援など多岐にわたる内容の相談を受け付けし、必要な情報提供や支援を行うことはもとより、介護保険サービスの利用を希望する高齢者に対して、介護保険法に基づく介護予防・日常生活支援総合事業や予防給付に係るケアプランの作成及びサービスの調整を行っている。また、権利擁護支援として、高齢者虐待への対応、成年後見制度の利用支援、消費者被害の防止、さらには地域ネットワークの構築として、地域の医療機関や福祉施設、地縁団体等との連携を図り、介護保険サービス以外の地域における様々な社会資源を活用できる体制構築を行うことに加え、圏域の居宅介護支援事業所のケアマネジャーの支援や助言を担うなど、業務は多岐に渡り、高い専門性が求められることから、社会福祉士、保健師（または看護師）、主任介護支援専門員の三職種を必置して運営をしている。

そのような環境下、本システムは、2040年に向けて今後増加していく高齢者人口に対して、限られた専門職の人員体制の中にあっても、効率的かつ効果的に事業を実施していくために導入するものであり、したがって、単に価格だけでなく提案内容や技術力、企画力、実績等を総合的に判断して、現場の職員にとって有益な高品質のシステムを供給できる最適な提案者を選定する必要があるため、プロポーザル方式での調達を行おうとするものである。

## 2. 審議

受託者選定にあたって、プロポーザル方式が適切かの審議を行った。

## 3. 結論

プロポーザル方式を採用した。

# 案件 2. 子どもの体験支援事業業務委託

## 1. 議事の概要

### (1) 業務の目的

世帯収入や家庭環境の差から生まれる学校外活動における「体験」の差によって、子どもの「認知能力」や「非認知能力」の差が生じているとされる「体験格差」が、昨今注目されているが、本市においても例外とは言えず、「体験格差」解消のための支援をさらに充実させることが求められる。

現代社会のデジタル化が進む中、社会的・経済的困難を抱える世帯の子どもたちが、自らの能力を開発し、将来に夢や希望を持って社会で生き抜く力を習得することで、就職や進学などにつなげることを目的として、高校生を対象としたプログラミング教育に関する事業を実施する。

### (2) プロポーザル方式を採用する具体的な理由

子どもの体験支援事業の実施にあたっては、単にプログラミング教育を行うだけでなく、困難な状況にある子どもの状態を理解し、寄り添いながら支援を行うことや、必要に応じて行政や学校、地域などの関係機関と連携しながら支援を行うことを念頭に置いた上で実施する必要がある。

そのため、本事業には子どもの貧困に対する知識や、困難な状況にある子どもへのノウハウを有していることが必要であり、価格のみによる競争入札に適さないため、企画提案書の提出や、プレゼンテーションによる審査を行う公募型プロポーザル方式により、総合的に比較し事業者の選定を行うべき案件であるため、当方式を採用する。

## 2. 審議

受託者選定にあたって、プロポーザル方式が適切かの審議を行った。

## 3. 結論

プロポーザル方式を採用した。